

# 先人から受け継ぐ不屈のDNA

## いいたて60祭 60周年記念式



上の地図の黄色い部分が旧飯館村。青の部分が旧大館村です。二村が合併して飯館村が誕生しました。

「いいたて60祭」の中で行った60周年記念式は、多くの村民の参加、また国・県他からの来賓ご臨席のもと盛会となりました。60周年にちなんでプラチナ婚（結婚60周年）のご夫婦を祝福したり、10年前に募集し大切に保管してきた「10年後への手紙」の発送式を行ったりと企画も目白押しで、笑いと涙と決意に満ちた心に残る式ともなりました。



協働で地域づくりを進めてきました。植林に集まった人々



昭和36年の「草野大火」。46戸120棟を焼失しました



平成15年12月。合併の是非を問う住民投票を実施

村の先人たちは、冷害や飢饉、大火・水害・雪害といった幾多の危機を乗り越え、腹を割って意見を述べ合い力を合わせて村づくりに励んできました

式でははじめに、菅野村長があいさつに立ちました。「大火・大雪などどんな困難に直面しても、前を向いて『お互い様』の精神で乗り越えてきた村です。私たちはそのDNA（遺伝子）を受け継いでいる。先人にならない、この難局を乗り越え、次の世代に村を引き継いでいきましょう」。先人や先輩方への感謝をこめ、復興に向かう村の決意を表しました。

また、60周年にちなんだ多彩な企画も続き、さまざまな人が壇上で思いを語りました。結婚60周年の祝福を受けたプラチナ婚の庄司勝藏さん（白石）は、8組の夫婦を代表して感想を求められると、「よく今日までもつたもんです。驚きです」と、お

茶目な回答。会場を大いに笑わせました。

また、還暦を迎え中学校時代の同窓生で寄付を行った「草野中学校卒4・6申酉会」の長井実さん（関沢）は「60年間村と共に歩んできました」とあいさつ。同窓生らもそろいの赤いTシャツで登壇し、「第二の人生を村と共にさわやかに生きていきたい」「一緒に61歳に歩み出したい」と言葉を選びました。

また、までい大使の再任式も行われ、代表して委任状を受け取ったラジオ福島アナウンサーの菅原美智子さんは「飯館村は二つになれる村。また会いたいと思う人がたくさんいる村。これからずっと寄り添いたい」とエールを寄せてくださいました。

これからの村でかなえない夢を語る「飯館夢リレー」、「10年後の手紙」発送式なども続き、式は、村民のふるさとへの思いと、応援してくださる皆さんのあたたかな励ましに彩られました。



記念式で感謝の思いと復興への決意を述べる菅野村長



「10年後への手紙」の発送式

川俣郵便局職員のエライ子さん



村の60周年にちなみ結婚60年を迎えた「プラチナ婚」のご夫婦8組を祝いました



菅野美千代さん（比曾出身）

プラチナ婚の両親と一緒に来て、村民歌をととても懐かしく聴きました。いろいろ新しい施設ができて、ここからまた復興が進んでいくよう願っています。



菅野國男さん（関根・松塚）

家を直したら村に帰りたと思っていて、毎週のように相馬から片付けに通っているんだ。今日は人がすごく集まって、天気もよくて最高だったよ。



森利子さん（飯樋町出身）

思い出がよみがえり、悲しさも楽しさも感じました。そしてよくここまで頑張ってきたなど。遠くにいても我が村です。早く元の姿に戻ってほしいです。